

「ハウスのむら」

コスモスの会で日本語を学習している中国残留日本人（中国帰国者）が通所しているデイサービス施設をはじめて訪ねました。阪神大物駅の近くにある「地域生活支援ハウスのむら」です。

きっかけは昨年の夏、コスモスの会の学習者とスタッフを地域の益踊りに誘っていただいたことでした。

1階の南側、玄関近くの地域交流喫茶で、施設長の安井直樹さんに中国帰国者が通所するようになった経緯について伺いました。

◇◇◇  
いまから60年余りに野村医院を開設した野村和夫先生は、患者さんのためなら診療だけでなく通院や生活、住宅のことまで相談にのっていた人でした。いまも野村医院はその気持ちを受け継ぎ「地域に根ざし人々の「生きる」を支える」を理念としてやっています。

中国残留日本人の診察は？  
9年程前、中国残留邦人



Photo by T.Munekage

ゲームに夢中の内田志野さん

コスモスの会で日本語学習を頑張っている中国帰国者の方たちも高年齢が進んでいまして、「ハウスのむら」の取り組みを頼もしく感じながら施設を後にしました。  
（聞き手 宗景正・藤田順子）

日本語ボランティア  
研修

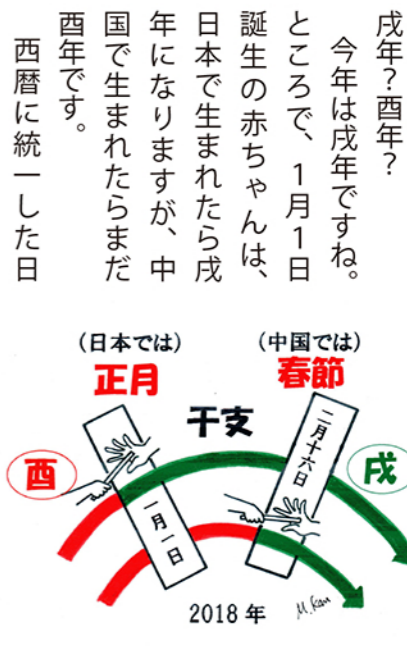
大阪YWCA日本語教師会の伊東和子先生を講師に迎え、10月12月3回にわたって研修会を実施。内容は、『地域の日本語教室の役割』『外国人にとって何が難しい？』『コミュニケーションのとり方』について、ボランティアを始めたばかりの人を対象としたものであった。しかし、経験者も含め日本語学習を支援するという重要な意義を改めて考える機会となった。



（田村博志）

「高齢学習者で耳が遠く最前列でも講師の声を聞き取れない人がいる。独自の個別学習をすべきなのか」という質問に対し、「十分に聞き取れなくても、理解できなくても、そこに座っているだけで、ご本人が居心地いいと感じられる雰囲気を作ることが大切だ」との講師の助言があった。

あんな話 こんな話



西暦に統一した日本の年中行事とは違い、中国では大半が旧暦（農暦）のままです。農暦は春節を1年の始めとする暦のため、元日ではなく春節から戌年に入るので。ちなみに、今年の春節は2月16日です。元旦から46日の期間中に生まれた日本の子どもたち、いつか中国旅行の時に、「ちがうだろーあなたは酉年！」と言われるかもしれませんよ。

属狗？属鸡？  
今年属狗年。话说1月1日出生的宝宝，如果生在日本则属狗，如果生在中国还属鸡。  
与统一过阳历节日的日本不同，中国的大半节日还保留着过农历的传统。农历以春节为1年的起始，所以春节之后才算进入狗年，而不是元旦。顺便一提，今年的春节是2月16日。从元旦算起46天内出生的日本宝宝们，有朝一日去中国旅游的时候，没准会被人说“不对！你属鸡！”哦。

中国残留日本人への理解を深める集い  
満蒙開拓団の苦難を知ろう

満蒙開拓団として旧満州現中国東北地方)に入植し、取り残された中国残留日本人への理解を深める集い、「満蒙開拓団の苦難を知ろう」を、9月30日(土) 尼崎市立中央公民館で開催しました。



満州の地図を使い体験を話す石坪薫さん

す。よく話して下さいました。これからも元気で語り続けてください」など多くの感動が寄せられました。

交流会・座談会  
残留孤児が自らの体験を！

6人(下平朋好さん、宮島満子さん、重光孝昭さん、川上茂さん、田牧武司さん、大中はつゑさん)の残留孤児が、「9歳で孤児になって帰国までの40年間がどんなに長かったか」「45年6月入植。終戦の2か月前だった。悔しい・・・」など自らの体験談を発表。また、宗景代表は「開拓民が辺境の地に防衛的に配置されたことが、取り残される一因となった。そして残留日本人のさらなる苦難は、戦後日本政府の対応の遅れにより作られた。歴史的事実と向き合い、伝えて行くことが大切」と指摘。

ロビーでは3つの集団自決(大兵庫開拓団「麻山事件(哈達河開拓団)」「七虎力開拓団)を展示紹介しました。  
また、この「集い」にジャーナリストの大谷昭宏さんをはじめ180人の方々が出席してくださいました。  
（石打謹也）

かけはし

中国残留日本人支援団体 尼崎日本語教室  
コスモスの会だより  
第14号 2018.1.1

編集発行：コスモスの会広報部 〒661-0953 尼崎市東園田町4丁目152-16 TEL：06-6493-5563  
コスモスの会ホームページ・URL=http://kosumosunokai.sakura.ne.jp/index.html FAX：06-6493-0817

2018年あけまして  
おめでとーございませう  
今年もよろしく  
お願いいたします



Photo by T.Munekage

ポプラの道(中国黒龍江省)  
黒龍江省の田園を貫く道にはポプラ並木が続く。この並木は作物を風から守っている。ポプラは寒さに強く、成長が早い。そして姿も木肌も美しい。だがこの並木は地平線に沈む赤い夕日を遮ってしまう。「一日を締めくくる写真」を撮りたいと思いつきながら旅をしているのだが、地平線に沈む夕日は撮れない！  
（宗景 正）

石坪少年の手記を紙芝居に  
入水自決に追い込まれた大兵庫開拓団(旧出石郡高橋村・現豊岡市但東町)の生還者、石坪馨さんの実体験を基にした紙芝居が上演されました。  
1945年8月13日ソ連軍侵攻が伝えられ、さらに現地暴民の襲撃などにより行き場を失い、開拓団は氾濫した呼蘭河で入水。石坪さんは年長少年として開拓団の消息を母村・高橋村に伝える特命を受けたが、捕えられ自決から生き延びた人と共に難民収容所を経て、46年10月、高橋村に帰還しました。  
リアリティーある紙芝居の絵は峠尚代さんが書かれ、峠さんと浅田和子さんによる熱のこもった語りには私達を事件のあった時代に引き込みまし

石坪馨さんの体験談に衝撃！  
紙芝居の後は、88歳のご高齢である石坪馨さんが「ソ連国境の防波堤として開拓団は配置された。関東軍は開拓団を守らなかつた」と絞り出すような声で語られました。  
参加者から、「朴訥な話がかえって力があつた。要は戦争をしない、させないということだと思つた」「よくぞ帰つて来て下さいました。どんなに苦しくつらかつた事でしょう。死ぬよりつらかつたと思つた。